

令和3年度第1回沼津市立図書館協議会【書面協議の概要】

令和3年度第1回沼津市立図書館協議会は、令和3年8月31日（火）の開催を予定していたが、新型コロナウイルスに係る静岡県への緊急事態宣言の適用を受け、会議方式から書面協議に変更したので以下に協議会委員からの意見概要を記す。

書面回答期間 令和3年9月1日（水）～9月7日（火）

- 送付資料
- ・資料1：令和2年度利用状況及び自主事業について
 - ・資料2：令和3年度資料整備（予算）及び自主事業について
 - ・資料3：第3次沼津市子ども読書活動推進計画策定体制とスケジュールについて
 - ・資料4：第2次沼津市子ども読書活動推進計画の進捗状況及び評価
 - ・資料5-1：読書に関するwebアンケート調査結果
 - ・資料5-2：子どもの読書に関する保護者webアンケート調査結果

【委員からの意見の概要】

（資料1：令和2年度利用状況及び自主事業について）

- ・「ぬまづ電子図書館」は県内でもトップの所蔵点数とのことだが、利用の実態や、今後の見通しや問題点、注意しなくてはならないこと、メリット、デメリットなどを知りたい。
⇒（図書館：回答）「ぬまづ電子図書館」の令和2年度の貸し出し6,385点数のうち、年代別の利用率は40代22.5%、50代20.5%、60代16.0%、また、時間帯貸出点数は20時台556件、19時台484件、21時台463件でした。

そのため、今後、若い人達の利用促進や、小中学校でのICT活用教育における活用等に力を入れる必要があり、図書館を利用しにくい方に向けた広報や、学校等との連携が課題となっています。

また、引き続き、利用者の分析を行い、利用者ニーズをとらえた選書を行っていく必要があります。

メリット、デメリットについて、電子書籍の最大のメリットは365日24時間、図書館に来館しなくても貸出・返却、検索等が可能なことです。また、文字の拡大、音声読み上げ等の機能を有しており、障害者や高齢者に優しいこと、書籍の保管場所が不要で、紛失、汚破損リスクがないこと、貸出期限が来ると自動返却されるので延滞がなくなることなどです。デメリットとしては、紙の書籍と比較し割高であること、公立図書館向けの電子書籍の種類や量が少ないことなどです。

- ・令和2年度の自主事業は予定どおり実施されたのか？
⇒（図書館：回答）予定していた文芸講座は講師との調整により、また、ビブリオバトル小中学生大会 in 沼津、火曜上映会、おはなし会については自由集合での対面実施が前提のため実施できませんでしたが、それ以外の講座、講演会等については、参加人数を制

限し、事前受付にする、開催方法をリモート配信にするなど、コロナ禍に対応した方法により開催しました。

- ・講座、展示共に、いつも工夫が凝らされており、魅力的でとても良いと思う。特に、読みメン講座は、これから子育てを始める人達にとって、いい機会になると思うので、「Proud Numazu Kosodate」の face book ページ、ラインなどを利用して、もっと多くの人に知ってもらおう（情報が行き届く）事が必要だと思う。
⇒（図書館：回答）図書館のイベント等については、「Proud Numazu Kosodate」を始め、他サイトなども活用し、広報して参ります。
- ・コロナ禍が過ぎ、様々な制限が解除された時、新しいサービスに挑戦してほしい。アンケート調査するなど、新しい図書館の将来像を考えてほしい。
⇒（図書館：回答）図書館では、今後も電子図書館及び生涯学習の拠点としての機能の充実を図ります。また、今年度は、利用者にアンケート調査を実施し、様々なご意見を伺う予定です。
- ・大きな影響があったコロナ対策について、実績報告の中で1項目設けるなどして記録しておいたらいかがか。
⇒（図書館：回答）沼津市が発行している他の資料と整合性を図るため、今回、項目は設けておりませんが、別途、記録を作成します。
- ・古川信夫さんのYouTube 配信はとても良かった。アーカイブとして残してほしい。
⇒（図書館：回答）古川信夫さんの講演会については、DVD-R に保管し、現在も沼津市公式YouTube チャンネルで配信しています。
- ・1ヵ月の休館期間があったのに対し、貸出冊数の減少が約6%に留まったことは、コロナ禍で本を読みたい人が増えている可能性もあるのではないか。
- ・コロナ禍にあって、読み聞かせ動画配信、講演会のリモート配信、飛沫防止対策等の工夫をしていることがわかった。
今後は、しばらく、接触への抵抗感が残ることが考えられる等、電子書籍への需要が更に高まっていくように思うので、電子書籍の配分を増やしていくことで利用率も高まると思う。
- ・図書館の職員は、コロナウイルス感染防止に注意を払いサービスや接客に務めている。
- ・入館者減少は予想通りだが、減少率を37%に抑えることが出来たのは、まずまずの結果である。貸出利用者数が16%減、貸出冊数6%減にとどまったのは貸出冊数上限を引き上げた効果によるもので十分なサービスが行われた結果である。
- ・館内掲示や図書館だよりなど随所に工夫が見られる。
- ・貸出数の上限を増やす、図書館ホームページのマイページより延長も手軽にできるなど利用しやすさが増した。
- ・コロナ禍の中、オンライン活用、電子書籍、イベント開催など努力した結果、貸出数減少に歯止めがかかり成果があった。
- ・コロナ過の中、電子図書など、出来ることへの積極的対応を評価する。
- ・コロナ禍の中、「ぬまづ電子図書館」が開館した事は評価できる。「ぬまづ電子図書館」へ

の視覚障害者の関心は高く、点訳したパンフレットの希望もあった。

- ・コロナ禍の中、自主事業は今までと違う形式になった。図書館ホームページで講演が動画配信され見ることが出来るのは良い。
- ・貸出冊数の引き上げは利用者にはありがたい。電子図書の蔵書数の多さも大変良い。

(資料2：令和3年度資料整備（予算）及び自主事業について)

- ・「地域新聞デジタルデータ化業務委託」の新聞は「沼津朝日」のことか？
⇒（図書館：回答）令和3年度は「沼津毎日新聞」のデジタルデータ化を進めます。今後、「ぬまづ新聞」や「沼津朝日新聞」もデジタルデータ化していく予定です。
 - ・電子書籍ライセンス契約の内容を知りたい。
⇒（図書館：回答）電子書籍システムの契約内容は、電子書籍コンテンツ、サービス導入初期費用、クラウド使用料の3種類があります。その他、電子書籍コンテンツの使用契約ライセンスは、期限有と無のものがあり、価格や機能についても様々です。
 - ・電子書籍は所有権を購入するものではないが、使用期間の終了により蔵書数が減少するのか？
⇒（図書館：回答）電子書籍には、期限有と期限無の2つの方式があります。期限有の方式は、購入後2年間経過もしくは、52回貸出があると消滅し利用することが出来なくなります。期限無のものについては、図書館システムを停止しない限り利用出来ます。利用期間の終了により期限が有る蔵書数は減少しますが、旅行本など新しい情報が必要な書籍を更新し、蔵書数を維持する予定です。
 - ・図書資料について、地区センター図書室の予算が前年度からだいぶ削られているが、住んでいる地域で一番利用しやすい地区センターの図書室こそ、お金をかけて色々整備してほしい。
⇒（図書館：回答）本市図書館では、令和2年1月から、どの図書館、地区センターでも別の場所にある書籍を予約して借りたり、返したり出来るようになりました。図書館全体として整備し、地区センター図書室に所蔵が無い場合は、取り寄せて借りていただくように周知に努めます。また、地区センター図書室の蔵書の循環を良くするため、蔵書の一部を定期的に巡回させるなどの取り組みを行っています。
 - ・コロナ禍で、図書館の存在価値、重要性が高まったと思う。予算額の増額を要望したい。
⇒（図書館：回答）限られた予算内ではありますが、利用者に満足していただけるような選書やサービスに努めて参ります。
 - ・電子書籍は利用が限られていると思うので、電子書籍講座を開くことなどを要望する。
⇒（図書館：回答）今年度から市生涯学習課の出前講座に「はじめよう電子図書館」と題し講座登録をしておりますので、機会があれば是非ご利用ください。図書館内での講座開催については、開催に向け調整して参ります。
- ※ 出前講座とは、市の職員が講師となって無料で会場へ出向く講座のことです。
- ・リクエストによる新規図書購入は今後も続けてほしい。
⇒（図書館：回答）リクエストによる新規図書購入は今後も継続する予定です。

- ・視聴覚資料は、スマホ・PC等で個人視聴できない作品や資料が用意されることを希望する。
⇒（図書館：回答）公立図書館で購入できる視聴覚資料は、著作権者や、発売元が図書館用に許諾した作品に限られています。その中で、図書館の選定基準に基づき、民間のDVDレンタル事業者と競合することがないように、通常、発売から3年が経過したものを計画的に購入しています。
- ・電子書籍の貸出は、今のニーズに合っていて良い事業だと思う。
- ・自主事業は良い企画なので地道に続けてほしい。
- ・電子図書や自主事業への取り組みを評価する。

（資料4：第2次沼津市子ども読書活動推進計画の進捗状況及び評価）

- ・中高校生の読書の利用実態は？
⇒（図書館：回答）令和3年8月に市立図書館が実施したアンケート結果によると、家で本を読む中高生の割合は、中学生では約81%、高校生では約68%でした。
- ・地区センター図書室等の取り組みがAとなっているが、実際の活動がどんな形で行われているのか知りたい。
⇒（図書館：回答）第2次計画の期間内に、市内の全地区センター（第一、戸田を除く）に図書室が整備されました。これを受け、令和2年1月から、どこでも本を借りられて、どこでも返すことのできる体制を整えたことにより、特に地区センター図書室での利用促進につながり貸出数が増加しました。
この他にも、地区センター図書室に、巡回指導員を派遣し、地区センター図書室の書架を見やすくする、利用者の意見を聞き、購入する本の参考にするなど地域の実情に合う図書室となるように工夫をしています。
- ・地区センター図書室は、蔵書が少ないからこそ、思いがけない発見がある。スキル向上などのため、地区センター図書室担当者に対しても巡回指導員や司書による研修など行ってはどうか。
⇒（図書館：回答）地区センター図書室の運営は、指定管理者である地域の自治会関係者等が他の業務と兼務で行っており、貸出・返却以上の業務の依頼については課題があります。今後とも、地区センター図書室の充実を図るため検討して参ります。
- ・LGBTQへの配慮のためか、アンケートに性別の設問が削除されたが、性差による現状把握の必要性はなくならないと思うので、単に削除ではなく工夫してほしい。
- ・読書推進は子どもの頃のファーストタッチが大変重要だ。コロナ禍で対人の行事開催が難しいので、新たな方法の模索が必要である。
- ・読書アドバイザーを活用し、活用方法について図書館とアドバイザーで話し合う機会がほしい。
⇒（図書館：回答）今後、検討して参ります。
- ・計画の策定は懇話会で行い、評価は図書館協議会で行うのか？
⇒（図書館：回答）第3次計画(案)の策定は、第2次計画の評価等を踏まえ、懇話会で検

討いただいているところです。一方、第2次計画の実績評価やアンケート結果は、今後の図書館運営の基礎的資料となることから、令和2年度の実績、令和3年度の計画と合わせてお示ししました。

- ・進捗状況及び評価を見たが、概ね計画どおり達成されているようで良い事だと思う。
- ・学校などでの読書活動は、すごく評価されていると思うが、実際、家庭への啓発が、まだまだ足りていないように感じる。家読も形式上はあるが、子供の周りを見ている、やっている子が少なく、メール配信など、親にもしっかり毎月伝わるような事が必要だと思う。
- ・学校では、学校図書館の利用状況は向上しているものの、家庭での読書の状況が良くないと評価されている。近年、ノーメディアデーと家庭読書の日を同一日にしたり、中学校区単位で同一日に揃えたりするなど工夫がされているので、これらを幼保小中高、更に市内で揃え「沼津家読」をアピールするのも良いかと思う。
- ・新計画では、電子図書と子どもの読書の関わりをどう表現するか興味がある。子どもが読書に親しむようになるためには、紙の本による親子などの交流が大事だと思うので、家庭における読書活動に係る諸事業の継続、充実を期待する。
- ・子どもに本を読む楽しさを知ってもらうことは図書館だけではできない。家庭やボランティアなどを含め課題にひとつひとつ向き合って進めてほしい。
- ・アンケートを見て、読書を根付かせていくには地道な努力が必要だと思った。
- ・大人が本を読む習慣付けや、子どもが読みたい本を見つけてあげる手伝いは必要だと思う。

(その他)

- ・図書館を休憩施設、昼寝の場所のように利用している人を、ときどき見かけるが、巡回している警備員から、ちょっと声掛けをしてほしいと思うことがある。
⇒(図書館：回答)長時間の昼寝やいびきなど、他の利用者の方に迷惑な状況については、今後とも注意させていただきます。
- ・沼津市立図書館は、広々として利用しやすい図書館だが、本や資料の盗難など防犯上の問題はないのか。
⇒(図書館：回答)各フロア入口に盗難防止装置を設置し、貸し出し手続きをしないまま館外に持ち出すと、ブザーが鳴ることで、盗難の抑止効果が図られています。
- ・中学生、高校生の学習室以外の利用実態を教えてください。
⇒(図書館：回答)令和3年4月1日現在の13歳から18歳までの人口は、沼津市全人口の約5.4%、この年代に貸し出した図書数は、全体の貸出数の約2.1%となっています。
- ・事業や展示物を写真や動画にして保存し、過去の催し物をいつでも見られるようになると良いと思う。
⇒(図書館：回答)原則として、講演会や展示等は、その場限りで、講師や作者からの許諾をいただいた上で実施しています。イベント終了後の映像配信につきましては、講師等の許諾を得られる場合は実施していきたいと考えます。

- ・図書館も経年劣化で暗くなったきたようである。風通しよく明るくなればよいと思う。
- ・コロナ禍において、図書館は感染予防対策が徹底されている。安全安心をアピールして来館者が増える事を期待する。
- ・子どもの本離れは、web の回答としては、それほど進んでいないと思う。
- ・電子図書は今後もっと普及するだろう。また、5Gでは動画環境も向上する。コロナ後も、現在に引き続き、必要な人への動画配信に取り組んで欲しい。
- ・今回、学んだ技術を引継ぎ、必要な方に動画配信するのは良いと思う。